



平戸梨丘

発行：横浜市立平戸中学校 校長 阿部 亮一
横浜市戸塚区平戸町993-4 TEL045-823-8272

「情報処理力と情報編集力」

副校長 宮内 浩一

厳しい残暑が続いておりましたが、9月も中旬を過ぎたころから、ようやく秋の気配を感じるようになってきました。秋は学習にも運動にも取り組みやすい季節といえます。さて、今回は「情報処理力」と「情報編集力」について話をしたいと思います。

1990年代中ごろまでは、日本はいわゆる成長社会で、経済も右肩上がりでも推移してきました。安価なものを大量に生産・販売することに価値がおかれ、あらかじめ正解(ゴール)が1つに決まっている課題に対して、素早く正確に答える力が重要視されており、このような力を「情報処理力」と呼びます。

しかし、現在の日本は人口も減少し始め、既に「成熟社会」に移行しています。知識や技術・経験を組み合わせ、答えが1つではない課題に対して自分の仮説を出す力や、自分の知識が足りない場合は他者の知恵や技術を借りて、自分が納得できる答えを出す力など、収集した情報や自分の考えを整理しまとめる力も重視されます。これらの力を「情報編集力」と呼びます。

「情報処理力」はAIが得意とするところであり、膨大なデータをいち速く正確にまとめあげたり、数値化することに長けたりしています。実際に私たちの生活の中でも、自動車の自動運転やレストランの配膳ロボット、セルフレジなどAIを活用した製品が多く普及してきています。しかしAIは情報処理力に長けているものの、情報を正しく解釈し、適切に判断をすることには不向きです。AIが集めた情報を人間が正しく理解するためには、問いを立てることが欠かせません。これによりAIが集めた情報を深掘りし、より正しい判断につなげることができます。また、問いを立てることで、AIが収集した情報から新たな発見を見出すことも可能です。これらの力がいわゆる「情報編集力」といえます。「情報処理力」と「情報編集力」、どちらが重要ということではなく、どちらも大切な力です。2020年から施行された新学習指導要領では、育むべき資質・能力のうち、「思考・判断・表現」という観点を設け、「問題を見いだす」「根拠ある予想や仮説を発想する」「解決の方法を発想する」「より妥当な考えをつくりだす」の4つの力を見えています。公教育の場でも、これから力を入れて育てようとしている能力の1つが「情報編集力」といえます。先を見通しにくい世の中では、その納得解を出せた自信や、自分なりの答がある安心感が幸福感につながるのではないのでしょうか。自分で決めたことで結果失敗したとしても、じっくり考えて決めた決断であれば、「この失敗から学ぶものがあった」と前向きにもなれるような気がします。

